

## 《眼科臨床エキスパート》 知っておきたい眼腫瘍診療

吉村長久, 後藤 浩, 谷原秀信 シリーズ編集 大島浩一, 後藤 浩 編

本書は現在の日本眼腫瘍学会所属役員と会員の執筆による力作大著である。同学会と日本眼病理研究会との両方に所属している執筆者も含まれており、随所に病理組織学的診断の重要性を説明し、カラー病理組織写真が豊富に挿入されている。

第1章「総説」では眼瞼・角結膜・眼窩・眼内の4区分別に、各腫瘍の定義、良性・悪性腫瘍別の診療目標、腫瘍診断〔目的、診断に必要な技術と設備（写真撮影、画像読影、試験切除と病理診断）、診断に必要な人材、診断における問題点〕、腫瘍の治療〔治療に必要な技術・人材・設備（腫瘍の手術、放射線治療、薬物治療）、治療における問題点〕、経過観察（治療前の経過観察、治療後の合併症に伴う経過観察、腫瘍再発・転移のチェック、経過観察に必要な技術・人材・設備）などについて概説されている。腫瘍局所のカラー写真、CT像、MRI像、カラー眼底写真、蛍光眼底像、光干渉断層計検査（OCT）像などの画像が示され、解説されている。また、病理組織診断のためには、切除組織をホルマリン固定後、手術を行った眼科医自身が「切り出し」を行うよう推奨している。さらに、眼腫瘍診療は一般眼科医と眼科腫瘍専門医が協力して行うよう推奨、すなわち病診連携を推奨している。

また、眼腫瘍診療の目標は「医学的介入を行うことにより、患者を安心させ生活の質を向上させることである」とあり、この文言は、私が人生の指針としている「同行一体」すなわち「病を癒やすには患者と医療者が一体となって修行し続けよう」と一致する。以上、本総説では多様な眼腫瘍全般の取り扱いに関して、重要点を簡潔に述べており、日常多忙な一般眼科臨床医はぜひ一読願いたい。

第2章「総論」では眼瞼・角結膜・眼窩・眼内腫瘍

について、良性・悪性腫瘍から腫瘤を形成する非腫瘍性病変までも取り上げ、疫学的事項、初診時の外来診察—どう診てどう考えるか、診断・治療に必要な検査、良性・悪性腫瘍別の治療を最前線の方法も含めて完全に網羅している。第3章「各論」も含めて、局所のカラー写真、病理組織所見、細胞診所見、フルオレセイン蛍光眼底像、インドシアニングリーン蛍光眼底像、OCT像、CT像、MRI像、超音波像、放射線像、ポジトロン断層（PET）像、PET-CT像、ガリウムシンチグラフィ、テクネシウム骨シンチグラフィなどの豊富な画像を示して徹底解説されている。さらに採血や尿検査などの一般検査や染色体検査、遺伝子検査、遺伝子再構成検査、サイトカイン測定、センチネルリンパ節生検などにも言及している。腫瘍摘出手術法については術後の形成手術、術後の観察間隔、観察終了時期まで記述し、放射線治療に関しては、X線・電子線・重粒子線（炭素線）照射、小線源治療、内照射治療、定位放射線照射治療（ガンマナイフ、サイバーナイフ）、強度変調放射線治療などにも言及している。経瞳孔温熱療法、光凝固療法、光線力学療法も記述されている。薬物療法に関しては、フルオウラシル、マイトマイシンC、インターフェロン療法その他、分子標的治療薬（増殖因子およびシグナル伝達阻害系、血管新生阻害系、細胞表面抗原系）についても詳細に言及している。

第3章「各論」では、眼瞼腫瘍として霰粒腫、瞼板内角質嚢胞（マイボーム腺嚢胞）、母斑、尋常性疣贅、脂漏性角化症（老人性疣贅）、表皮嚢胞、黄色腫、伝染性軟属腫、汗腺由来嚢胞、基底細胞癌、脂腺癌、日光角化症、扁平上皮癌、Merkel細胞癌を取り上げている。

角結膜腫瘍として、瞼裂斑、翼状片、乳頭腫、異形成症、上皮内癌、扁平上皮癌、結膜嚢胞、涙腺導管嚢胞、血管腫、血管奇形、リンパ管腫、リンパ管拡張症、リンパ腫、反応性リンパ過形成、母斑、原発性後天性メラノーシス、悪性黒色腫を取り上げている。

眼窩腫瘍として、海綿状血管腫、神経鞘腫、神経線維腫、視神経鞘髄膜腫、涙腺多形腺腫、腺様嚢胞癌、涙腺癌、悪性リンパ腫（低悪性度 MALT リンパ腫、濾胞性リンパ腫、悪性度の高い悪性リンパ腫）、炎症性病変、眼窩転移性腫瘍、眼窩浸潤性腫瘍を取り上げている。

眼内腫瘍として、網膜血管腫（毛細血管腫、毛細血管腫以外）、網膜星状膠細胞過誤腫、脈絡膜血管腫、脈絡膜骨腫、毛様体腫瘍、虹彩嚢胞、母斑、先天性網膜色素上皮肥大、眼内悪性黒色腫、眼内リンパ腫、網膜芽細胞腫、転移性眼内腫瘍を取り上げている。

小児から若年者に発症しやすい疾患として、角結膜デルモイド、毛細血管性血管腫、眼窩リンパ管腫、眼窩横紋筋肉腫、視神経膠腫を取り上げている。

そして各論中に取り上げた上記の各眼腫瘍について、疾患概念・臨床上的特徴、臨床所見の特徴、診断・鑑別診断、病理組織所見、治療方針と具体的治療法、治療に伴う合併症、予後と経過観察の方法、一般眼科医へのアドバイスについて解説している。

以上から本書は、全ての眼科医必携の最新テキストであり、他科の臨床医にも推薦できるテキストである。

岡山大学名誉教授・眼科学/日本眼腫瘍学会名誉会員/  
日本眼病理研究会名誉会長  
松尾信彦

B5・頁 476 2015 年 10 月  
定価：本体 18,000 円＋税  
[ISBN978-4-260-02394-8] 医学書院刊